

令和4年度 愛媛県ノーリフティングケア 普及啓発事業

社会福祉法人 伊方社会福祉協会

地域密着型特別養護老人ホーム 三崎つわぶき荘

▶ 【発表者紹介】

▶ 三崎つわぶき荘

ノーリフティングケア委員会

委員長：兵頭佐代（介護主任）

▶ 副委員長：小田優太

（介護副主任・ユニットリーダー）

もくじ

①：施設紹介・職員紹介

入居者紹介

②：施設にある福祉用具紹介

③：応募理由

④：三崎つわぶき荘においての

ノーリフティングケアの取り組み

⑤：普及啓発事業開始

⑥：個別研修後に取り組んだこと

⑦：普及啓発事業に参加をして

⑧：今後の課題・取り組み

伊方町の紹介

伊方町（2023.1.31現在）

人口：8372人

高齢化率：47.40%



施設紹介 ～施設概要～

愛媛県西宇和郡伊方町三崎4414番地1

社会福祉法人 伊方社会福祉協会

地域密着型特別養護老人ホーム 三崎つわぶき荘

開設：平成25年 6月

1階 グループホーム

18床（2ユニット）

2階 地域密着型特別養護老人ホーム

29床（3ユニット）

愛媛県西宇和郡伊方町湊浦861番地1

特別養護老人ホーム つわぶき荘

特養：60床

ショートステイ：10床

ケアハウス：30床 居宅介護支援事業所

▶ 施設写真



施設紹介～施設概要～

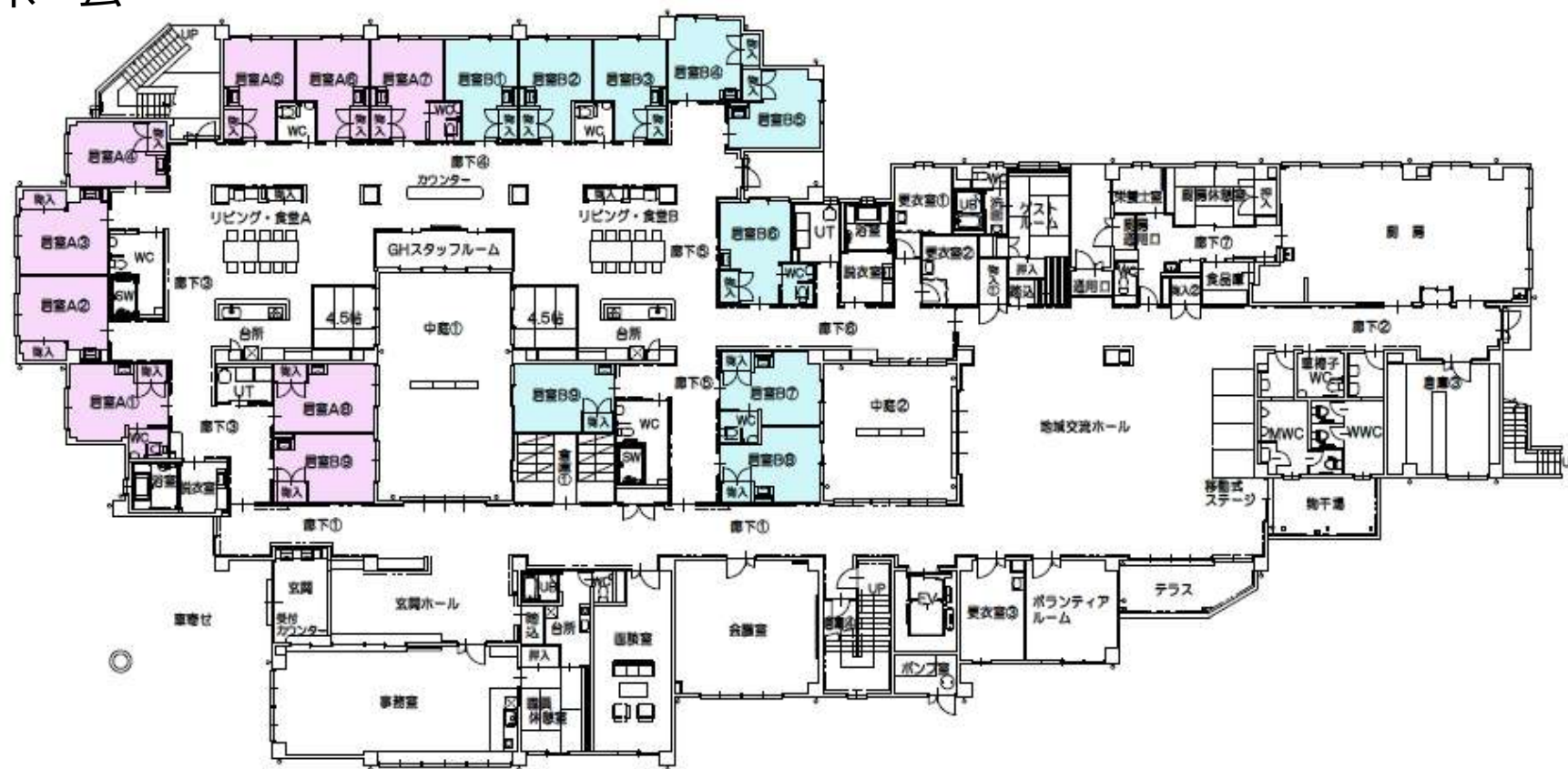
平面図

1 階
グループホーム

定員
18名

●たんぽぽユニット…9名

●ひまわりユニット…9名



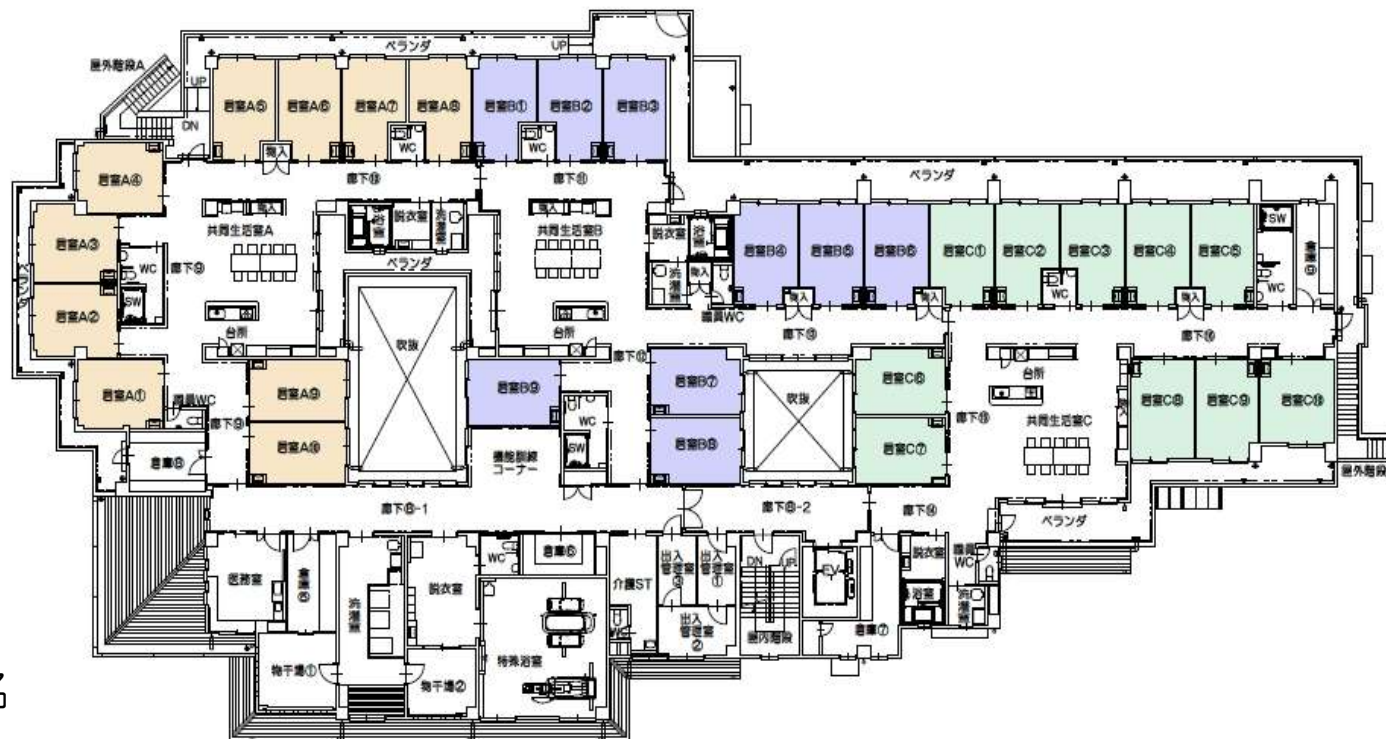
施設紹介～施設概要～

平面図

2階
地域密着型
特別養護老人ホーム

定員
29名

- うめユニット……10名
- ももユニット……9名
- さくらユニット…10名



施設紹介～職員～

職員数（特養介護・看護）

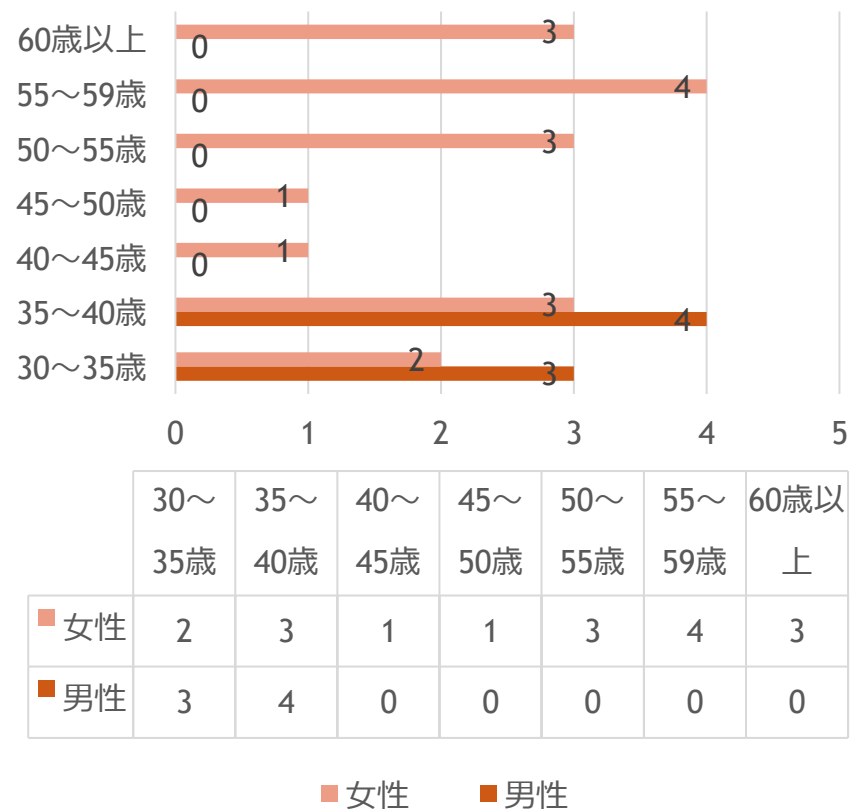
（R5.2月28日現在）

男性：7名

女性：18名

法人での経験年数は10年以上の職員が大半を占めている。

▶ 年齢層グラフ



施設紹介～入居者～

男女比率（R5.2月28日現在）

男性：6名

女性：23名

平均年齢：87.3歳

平均要介護度：4.1

入居者様に使用している福祉用具一覧（一部）

- ・床走行リフト
- ・ミニリフト
- ・マルチグローブ
- ・移座えもんシート
- ・車椅子
- ・ターンテーブル
- ・フレックスボード
- 等



施設にある福祉用具



↑ミニリフトを使用し
トイレへ行っています。



↑マルチグローブは
1人1枚携帯しています。



↑
*職員勉強会の時の様子（フレックスボード）

施設にある福祉用具



お風呂は、檜風呂で備
え付けのリフトで入浴
介助を行っています。



ノーリフティングケア普及開発事業への 応募理由

現状

当施設にてノーリフティングケア推進委員会を立ち上げて三年目になった。研修に参加した職員が中心となり、勉強会もしてきてはいたが細やかな対応まではできず、福祉用具を適切に使用できていないのが現状である。

全職員がノーリフティングケアをしっかりと理解し、施設全体で取り組むには講師の方々による指導が不可欠だと思い、応募をしました。

三崎つわぶき荘においての ノーリフティングケアの取り組み

年	三崎つわぶき荘での取り組み
2018	ノーリフティングケアコーディネーター ベーシック (1名参加)
2019	ノーリフティングケアコーディネーター ベーシック (2名参加)
2020 (令和2年)	4月 ノーリフティングケア推進委員会立ち上げ 年2回（ノーリフティングケア導入研修）の勉強会実施。 （講師として、つわぶき荘：菊池三生介護主任）
2021 (令和3年)	令和3年 年3回勉強会実施（同じ内容） 福祉用具を使用してみよう。 委員会メンバーが中心となり勉強会を実施。
2022 (令和4年)	令和4年 ノーリフティングケア普及啓発事業に参加 9月～3月 アドバイス研修・個別研修

ノーリフティングケア普及啓発事業 開始

2022年7月4日（月）

令和4年愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業 マネジメント研修に
委員長：兵頭・副委員長：小田が参加（オンライン）

2022年9月8日（木）

令和4年度愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業
全体研修に委員長：兵頭・副委員長：小田が参加

2022年10月28日（金）

アドバイス研修。協力事業所：開明の杜にて。

委員長：兵頭・副委員長：小田が参加。

提出書類を見て頂き、【様式6】実施計画書についてアドバイスを頂く。

【様式6】ノーリフティング実施計画書【令和4年10月26日作成】

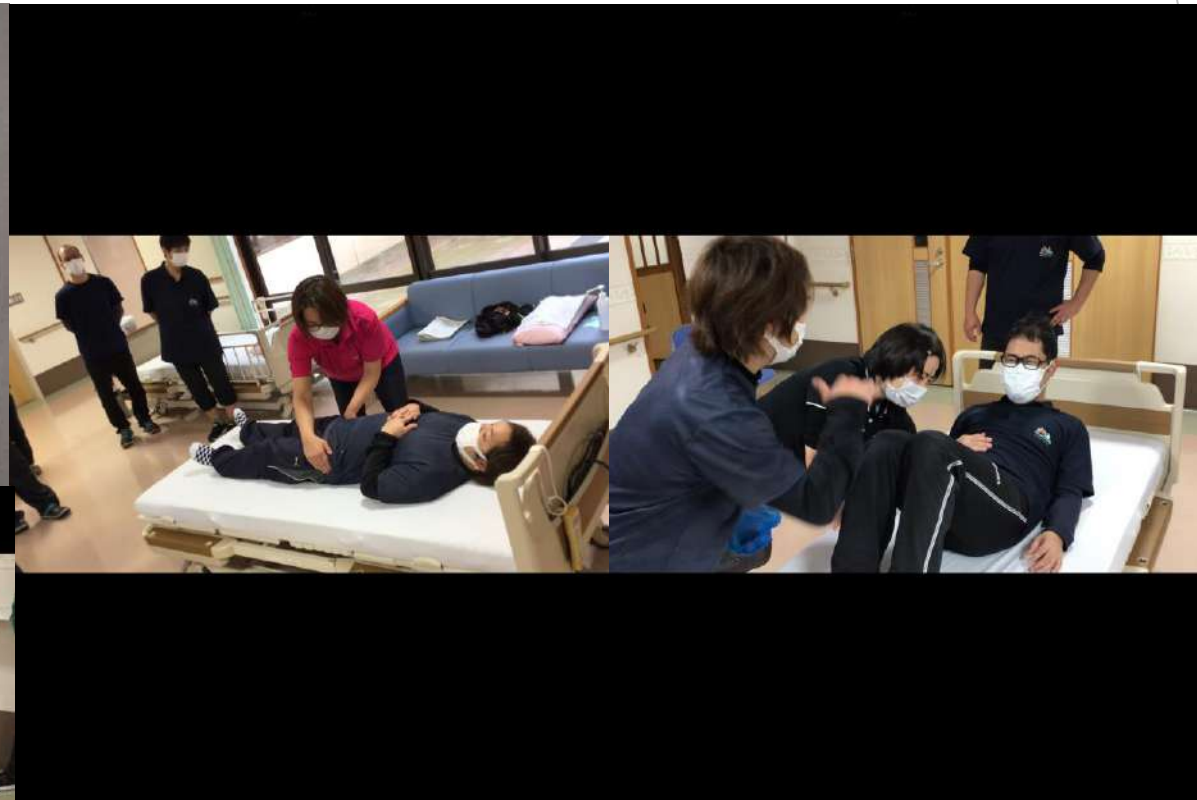
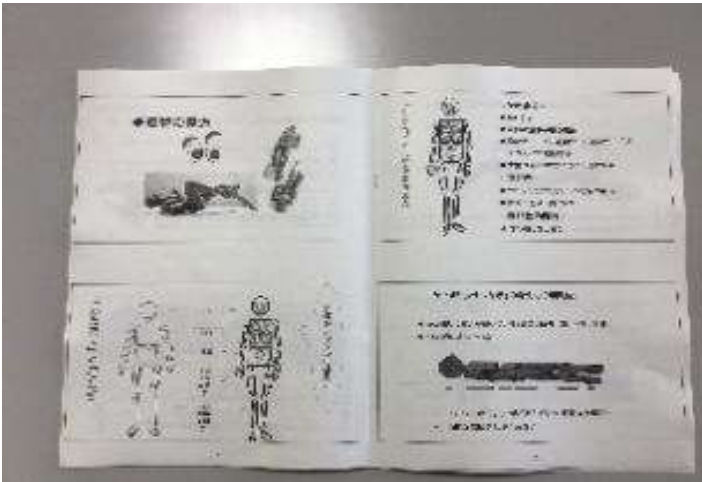
No.1

【事業所名 地域密着型特別養護老人ホーム 三崎つわぶき荘】

No.	課題	長期目標	期間	短期目標	期間	具体的内容
1	ノーリフティングケアの理解に職員間で差がある	全職員がノーリフティングケアに取り組むことができる	6ヶ月	全職員がノーリフティングケアを理解できる	1ヶ月	1. 勉強会の開催 ① ノーリフティングケア推進委員会のメンバーでの勉強会 ② 各ユニット会での勉強会 ③ 多職種での勉強会
2	移乗介助の負担を軽減したい	福祉用具の使用方法を習得し活用できる	6ヶ月	床走行リフト・スライディングシート・スライディンググローブ・フレックスボードを安全に使用できる	1ヶ月	1. 床走行リフト・スライディングシート・スライディンググローブ・フレックスボードの使用時の作業標準書を作成する。 2. 安全に使用できているか確認をする 技術チェック表の作成 3. 腰痛を軽減するため始業前にストレッチをする時間を設ける

個別研修1回目 姿勢の見方

▶ 研修風景写真



個別研修2回目 ポジショニング

▶ 個別研修様子



【様式6】 ノーリフティング実施計画書【令和4年12月10日作成】

No.1

【事業所名 地域密着型特別養護老人ホーム 三崎つわぶき荘】

No.	課題	長期目標	期間	短期目標	期間	具体的内容
1	ノーリフティングケアの理解に職員間で差がある	全職員がノーリフティングケアに取り組むことができる	6ヶ月	全職員がノーリフティングケアを理解できる	1ヶ月	1. 勉強会の開催 ① ノーリフティングケア推進委員会のメンバーでの勉強会 ② 各ユニット会での勉強会 ③ 多職種での勉強会
2	移乗介助の負担を軽減したい	福祉用具の使用方法を習得し活用できる	6ヶ月	床走行リフト・スライディングシート・スライディンググローブ・フレックスボードを安全に使用できる	1ヶ月	1. 床走行リフト・スライディングシート・スライディンググローブ・フレックスボードの使用時の作業標準書を作成する。 2. 安全に使用できているか確認をする 技術チェック表の作成 3. 腰痛を軽減するため始業前にストレッチをする時間を設ける
3	拘縮や筋緊張がある	安全に安心して過ごせる	6ヶ月	姿勢の見方を理解する	1ヶ月	1. 身体の動かし方・姿勢の整え方の習得 各ユニットで対象者を決める 2. 適した福祉用具の選定・使用

研修後に取り組んだこと

- ▶ 当施設の褥瘡排泄委員会と一緒に、ポジショニングの勉強会を実施。（12月）
- ▶ 研修後、3ユニットで1名ずつモデルを選定し、ベッド上のポジショニングに取り組んだ。（12月～2月）
- ▶ 2月末から1週間に一回ほど、ノーリフティングケア普及啓発事業のリーダー・サブリーダーが集まり、会議・勉強会を実施。（2月～）



褥瘡排泄委員会勉強会の様子

褥瘡排泄委員会とノーリフティングケア委員会が講師役となり、勉強会を実施。

▶ リースのクッション



H様 身体状況等

年齢・性別：92歳女性。

介護度：要介護度5

現病：アルツハイマー型認知症 両変形性膝関節症 高血圧症

既往歴：腰部脊柱管狭窄症があり。

車椅子：ティルト式・リクライニング車椅子を使用中。

移乗：床走行式リフト使用。

トイレ誘導時にはミニリフトを使用。

H様

個別研修前



ラウンド時



ラウンド後にクッションをリリースし、
今あるクッションと合わせて
ポジショニングを行う。



3月7日のラウンド時
仰臥位の姿勢



A様 身体状況等

94歳女性

介護度：要介護度5

既往歴：右大腿骨骨折。

車椅子：チルト式・リクライニングを使用。

【ポジショニングクッションの当て方】
を作成し、入居者様の居室へ掲示した。

A様の体交クッションの当て方について

令和5年2月1日

左右の体位交換を、下の写真のようにお願いします。



☆背部には 二連クッションを入れて下さい。

☆膝の下にはジャバラクッション、その下にピーチクリーンを入れて高さ調節をして下さい。

☆踵は浮かせた状態にしてください。

☆つま先には、スタンダードタイプを使用して下さい。

☆体位交換の際には、体の位置に注意して対応して下さい。



S様 身体状況

- ▶ 年齢・性別：85歳・女性
- ▶ 介護度：要介護5
- ▶ 既往歴：右大腿骨頭壊死症による下肢筋力低下があり。
チルト式リクライニング車椅子を使用。
- ▶ ユニットでクッションを自作する。

S様のポジショニング

▶ 個別研修前



▶ 個別研修後



3/7のアドバイス研修後



令和4年度愛媛県ノーリフティングケア 普及啓発事業に参加をしてみても

研修に参加をして、当施設には福祉用具は充実しているが、クッション類が豊富ではないことに気づいた。個別研修で教わった事（姿勢の見方・姿勢の整え方）を他の委員会と合同で勉強会を実施できたことはよかった。

普及啓発事業を通して、職員の学ぼうとする意識が想像以上に高いと感じた。

「事業が終わったから終了」ではなく、「これからがスタート」。介護者・利用者（入居者）双方の安心・安全を目指し取り組んでいくことができたと考えている。

今後の課題・取り組み

- ▶ 今回の普及啓発事業の振り返り、各ユニットでの振り返りを行う。
- ▶ 【様式3】～【様式6】の随時見直し。
状態変化のあった入居者様・新規入居者様の様式の作成。
- ▶ 福祉用具の使い方、介護技術の研修への参加
- ▶ 環境整備（居室）の見直し。
- ▶ 施設での個別勉強会を実施。職場巡視の実施。



終わりに

【令和4年度 愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業】に選定して頂き、ありがとうございました。

講師の守谷先生・井下先生を始めとする愛媛県介護実技普及指導員の皆様、協力事業所の開明の杜の橋本さんを始めとした施設の皆様、事業に携わって頂いたすべての皆様に感謝を申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

社会福祉法人 伊方社会福祉協会 地域密着型特別養護老人ホーム

三崎つわぶき荘